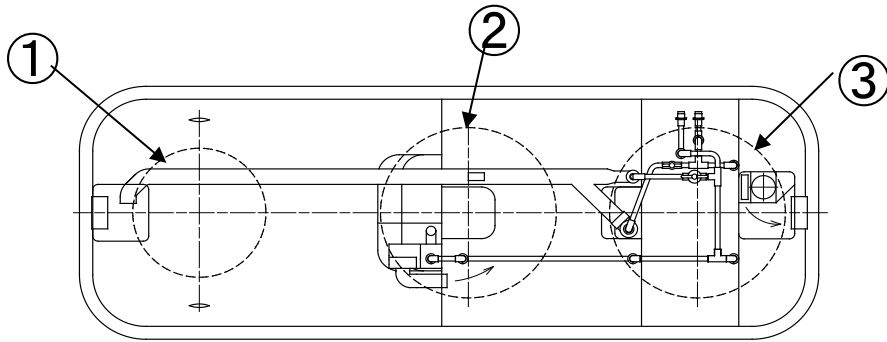
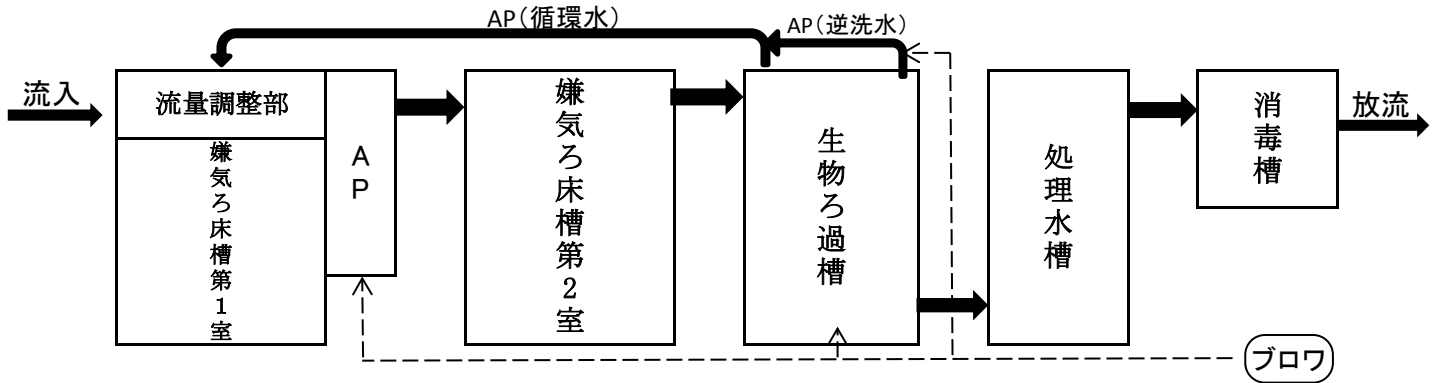


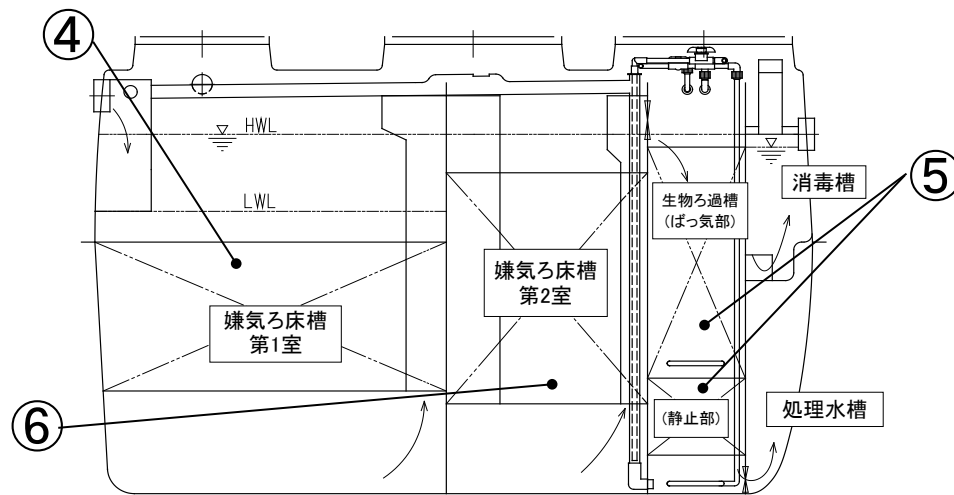
<b>DBR (株)ハウステック</b> OEM: なし 共同開発: NBR ニッコー(株) 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床・生物ろ過方式 5・7・10人槽	<b>窒素除去型</b>		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	20mg/L以下		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
15mg/L以下	10mg/L以下	20mg/L以下			



①嫌気ろ床槽第1室

②嫌気ろ床槽第2室

③生物ろ過槽



④嫌気ろ床槽第1室ろ材

⑤生物ろ過槽担体

⑥嫌気ろ床槽第2室ろ材

有効容量 (m <sup>3</sup> )		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	嫌気ろ床槽 第1室(L. W. L)	1.139	1.730	1.853
	嫌気ろ床槽 第2室	0.329	0.559	0.745
	生物ろ過槽	0.400	0.543	0.765
	処理水槽	0.139	0.210	0.575
	消毒槽		0.021	0.045
合計		2.870	4.293	5.695

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	第1室	400	
	第2室	350	450

流量調整装置	流量調整目盛	調整せき可動Vノッチ	逆洗装置	逆洗バルブ
有	有	有	有	全開

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5	60	60	2	2:00	3	1日
7	80	80		3:00		
10	120	120		4:00		

[人槽に対する流量調整・循環水量の設定範囲]

人槽	5	7	10
流量調整 移送水量(ℓ/分)	3.3~4.4	3.7~5.6	5.6~7.4
循環水量(ℓ/分)	1.9~2.8	2.7~3.2	4.0~4.5

特 徴

**ディスポーザー対応** ディスポーザー排水が処理可能である。

**嫌気ろ床槽** 第1室・第2室とも、ろ材が充填されており下降流である。第1室のみ水位が変動し、エアリフトポンプにより中間水が第2室へ移送される。固形物の分離と嫌気性微生物の働きによる有機物の分解、および硝酸性・亜硝酸性窒素の脱窒が行われる。

**生物ろ過槽** 上下の2段構造になっている。上側のばっ気部では、散気装置から空気が供給され、担体の表面に付着した好気性微生物による有機物の分解、アンモニア性窒素の硝化が行われる。下側の静止部では、浮遊物質のろ過が行なわれる。

**循環エアリフトポンプ** 剥離汚泥および硝化された汚水を、嫌気ろ床槽(第1室)へ移送する。

**逆洗エアリフトポンプ** 剥離汚泥を含む混合液を嫌気ろ床槽(第1室)へ自動逆洗により移送する。

作 業 時 の ポ イ ン ト

**保守点検**

- ①流量調整装置の移送水量は四角堰の高さを変化させて調整します。上表の水量になるよう実測して調整してください。
- ②循環水量を上表の水量になるよう実測して調整してください。
- ③生物ろ過槽のばっ気状態、気泡の均一な上昇、担体の流動状況を確認してください。槽内のSSが多い、または、閉塞が認められる場合は手動逆洗を行ってください。担体押さえ面をブラシ等で洗浄してください。
- ④手動逆洗を行い逆洗移送水量の確認を行ってください。
- ⑤ブロウのタイマー設定(現在時刻、開始時刻、終了時刻)を必ず確認してください。

**清掃**

- ①嫌気ろ床槽第1室の汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。第2室は適正量としてください。
- ②生物ろ過槽の清掃が必要な場合は、手動逆洗を行いながら処理水槽から汚泥を引き抜いてください。